

山田2号墳の調査

—造成工事に伴う埋蔵文化財確認調査—



1998年4月
太子町教育委員会

山田2号墳の調査

—造成工事に伴う埋蔵文化財確認調査—

1998年4月

太子町教育委員会

例言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町山田字島田に所在する山田 2 号墳の確認調査概要報告書である。
2. 調査は、平成 9 年 6 月 3 日～6 月 4 日にかけて実施した。
3. 調査は、揖保郡太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、海野浩幸が担当した。
4. 調査にあたっては、善定山株式会社、太子町シルバー人材センターの協力を得た。
5. 整理作業にあたっては、井上道子、岩村千穂、改発法子、小山真紀、中村豊子、藤井昭子の協力をえた。(敬称略)
6. 基準点測量は、喜多村測量株式会社に委託した。
7. 調査に使用した座標は国土座標第 V 系を基準とし、標高は T.P. を使用した。
8. 本書の執筆・編集は、三村修次、海野浩幸が行なった。

本文目次

例言

調査に至る経過	2
調査の概要	2
まとめ	3

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	1
第2図 調査位置図	2
第3図 トレンチ配置図	2
第4図 土層断面図	3
第5図 山田1号墳実測図	4

表目次

表1 山田1・2号墳計測値表	4
----------------------	---

図版目次

図版1上 2号墳調査前全景	
下 2号墳調査後現況	
図版2上 T-1 (南から)	
中 T-1 (東から)	
下 T-1 羨道右側壁基底石部分	
図版3上 T-2 (東から)	
中 T-2 (北から)	
下 T-2 玄室左側壁基底石部分、墳丘盛土	
図版4上 1号墳現況	
下 1号墳玄室裏込め	



第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

- | | | |
|--------------|------------|-------------|
| 1. 山田古墳群 | 2. 山田大山古墳群 | 3. 北山古墳群 |
| 4. 白毛古墳群 | 5. 郷ノ谷古墳群 | 6. 鷺山古墳群 |
| 7. 天神山古墳群 | 8. 黒岡古墳群 | 9. 塚村古墳群 |
| 10. 京見山才山古墳群 | 11. 上太田古墳群 | 12. 内山戸古墳群 |
| 13. 原北町古墳 | 14. 黒岡山墳丘墓 | 15. 川島遺跡 |
| 16. 田中遺跡 | 17. 亀田遺跡 | 18. 原沼遺跡 |
| 19. 山田畑田遺跡 | 20. 山田雁谷遺跡 | 21. 山田小丸山遺跡 |
| 22. 吉田ヶ谷竊跡 | 23. 青山竊跡 | 24. 下太田廃寺 |

山田2号墳の調査

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町山田字畠田

2. 調査機関

兵庫県揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課

三村修次、海野浩幸

4. 調査期間

平成9年6月3日～平成9年6月4日

5. 調査面積

5m²

6. 記録作成

トレンチ平面図(1/100)、土層実測図(1/20)

写真記録(モノクローム35mm・カラー35mm・カラーリバーサル35mm)



第2図 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

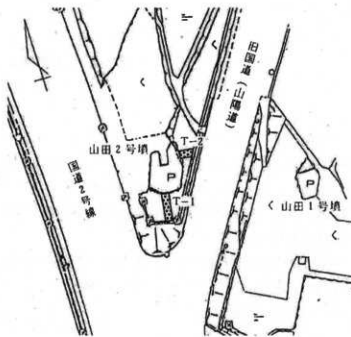
山田2号墳は、南方向に開口する右片袖の横穴式石室を主体部に持つ古墳で、国道2号線と山田集落をぬけてきた旧山陽道が交わる地点の山側に立地しており、京見山から北へ連なる山塊の旧山陽道山田峠付近の南斜面と城山の東斜面にかけて分布する15基からなる山田古墳群の構成墳の1基である。

2号墳は、旧山陽道をはさんで東に所在する1号墳とともに、明治期に造幣寮の顧問として来日していたイギリス人ウィリアム・ゴerland (William Gowland 1842～1922) により、「播磨姫路付近の古墳」として論文『日本のドルメンと埋葬墳』のなかで発表されている。

今回の2号墳の東及び南側の畑地が石碑展示場として造成されることになり、墳丘部分の遺存状況を確認するために幅1.2mのトレンチを2箇所(T-1・T-2)設定して調査を実施した。

2号墳の現況は、封土のほとんどを流失して石室の石材が露出しており、玄室奥壁上段と奥壁側の天井石も失われている。現状での規模は、玄室長4.00m、同幅2.20m、同高さ2.60m、羨道部幅1.25m、同高さ1.00mを測る。

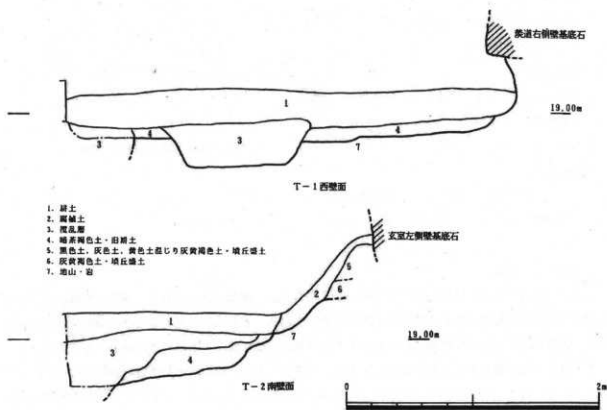
また、天井石上には「南無妙法蓮華經」の石碑が建立されている。



第3図 トレンチ配置図(1/500)

8. 調査の概要

各トレンチとも、耕土・旧耕土直下で地山・岩に達する。T2でかろうじて玄室左側壁基底石裏込め部分に灰黄褐色土と黒色土・灰色土・黄色土混じり灰黄褐色土の2層の墳丘盛土の痕跡が認められた。



第4図 土層実測図

9. まとめ

調査の結果、墳丘部は大きく削り取られ、T-2で墳丘盛土の一部が確認されたものの、地山整形等の痕跡は検出されなかった。また、削平は石室基底石以下のレベルにまで達していることが判明した。

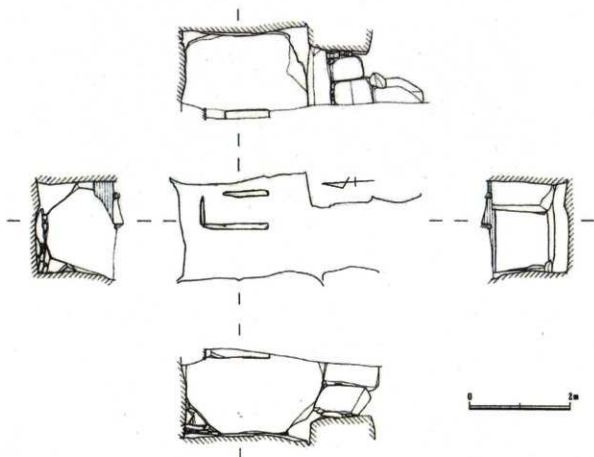
2号墳周辺は、近世以降の開墾及び旧山陽道等の道路工事により削平を受け、石室だけが取り残されてきたものと考えられる。

今回石室内の調査は実施しなかったが、現在2号墳の羨道部は天井部分まで土砂が堆積しており、この状況は明治時代のゴーランドが計測した当時とほとんど変化は無いものと思われ、閉塞装置の遺存している可能性が指摘される。

表 1 山田1・2号墳計測値表

番号	地 域 古 墳	玄 室			羨 道			全長	入口の 方向	墳 氏	備 考
		長さ	幅	高さ	長さ	幅	高さ				
16	橋野姫路付近	2.44	1.78	1.24	2.06	1.09	0.94	4.57	S-10-W	単円墳	玄室の天井と各壁はそれぞれ一石。羨道は凸壁と一線。
	山田1号墳	2.46	1.85	1.40	2.06	1.20	1.14	4.62	S-10-W	—	床面の掘り下げを受ける。左片袖式。玄室床面左よりに箱式石棺（現長1.3 幅0.55）
17	橋野姫路付近	3.67	2.24	2.90	不完全	1.22	1.19	—	S-15-W	単円墳	羨道は東壁と一線
	山田2号墳	4.00	2.20	2.60	—	1.30	1.00	—	—	—	右片袖式。羨道は土砂が埋積。

※16・17の数値は「日本のドルメンと埋葬墳」の付表のヤード・ポンド法の数値からメートル法に換算した。（単位はm）
 ※山田1号墳の数値は「太子町史 第3巻」に掲載の数値を参考にした。



「太子町史 第3巻」から 一部修正

第5図 山田1号墳実測図

図 版





2号墳調査前全景（北東から）



2号墳調査後現況（東から）



T-1 (南から)



T-1 (東から)



T-1
羨道右側壁基底石部分



T-2 (東から)



T-2 (北から)



T-2
玄室左側壁基底石部分
墳丘盛土



1号墳 (西から)



1号墳玄室裏込め

報告書抄録

ふりがな	やまだ2ごうふんのちょうさ							
書名	山田2号墳の調査							
副書名	造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	太子町文化財資料							
シリーズ番号	第54集							
編著者名	三村修次 海野治幸							
編集機関	太子町教育委員会							
所在地	〒671-1592 担保郡太子町鵜 1369-1 TEL. 0792-77-1010							
発行年月日	西暦 1998年4月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ...	東経 ...	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
945 2 204 山田2号墳	945 204 204 担保郡太子町山田 2 204 字高田	284645	450153	34度 49分 50秒	134度 37分 26秒	1997. 6. 3 ～1997. 6. 4	5 m ²	造成工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
山田2号墳	古墳	古墳時代					周辺部は、過去に開墾や道路工事等による削平を受けており、古墳築造に関する遺構は検出されなかった。	

